

令和3年度

校長室だより 11月号 No. 7

宝達志水町立押水第一小学校 R3.11.30



朝夕の肌寒さに、冬の到来を感じます。11月ももうすぐ終わり、あとひと月余りでお正月を迎えます。令和3年も、もうすぐ終わってしまうと思うと、少し寂しいやら、やり残したことがありますので少し不安な気持ちにもなってしまいます。しかしながら、押水第一小学校では11月の初めに大きな収穫があり、学校、保護者、地域が一体となったと実感できる時間を共有できました。それは、11月5日（金）本校の体育館で行った音楽集会です。この行事は、何年前から行われているのかわかりませんが本校の学校行事の目玉の一つです。

この会に向けて、子どもたちは、日頃の音楽の時間などで身に付けた発声・発表の力を基に、「人前で音楽を演奏」することに挑戦しました。それが自分たちの表現力に磨きをかけるよい機会となりました。子どもたち一人一人のどの演奏も、音楽を成り立たせるための大切な役割であり、自分の役割に誇りを持ち、友達の役割を大切に思いながら音楽を創り上げていこうという、子どもたちの思いが込められていました。それぞれの個性もありますので、始めからノリノリで演奏する子もいれば、恥ずかしがりながらも勇気をもって一声を押し出す子もいます。それを乗り切って、どの学年も練習を始めた頃より格段にうまくなり、「みんなが主役」の思いを込めて、一人一人が自分の役割を果たすことができました。みんなで一つの音楽を創り上げたこと、これは一人一人の達成感と共に、仲間と力を合わせた大きな成果といえます。

さて、今年度もコロナウイルス感染症対策の影響下での発表会となりました。日ごろから子どもたちの体調管理などに心配りをされ当日もご多用中にもかかわらずご来校くださった保護者の皆様、今回の音楽集会で素敵な演奏をご披露し、一緒に演奏をして頂いたブルーベリーさん、そして、卒業生の富田英子先生、いつも子どもたちのことを気にかけてくださっている地域の方々からの温かいご応援などがあり、こうした方々に陰から支えられて音楽集会が実施できたことに感謝申し上げます。ありがとうございました。

今後も、保護者と、地域と、教職員が一体となって子どもたちを育てていく押水第一小学校でありたいと思います。今後ともご支援のほど、よろしくお願いいたします。

先月の校長室だよりに続いて諺のお話を少し書きます。

「木を見て□を見ず。」

□の中に漢字一文字が入ります。どんな漢字が入ると思いますか。□には「森」という漢字が入ります。つまり「木を見て森を見ず。」という諺になります。一本一本の木に注意を奪われると森全体の姿が見えなくなるという意味です。

日常生活の中には、この諺がぴったり当てはまる場面がよくあります。例えばこうです。ここに円柱の立体があるとします。ある人はこの立体を真横から見るとします。すると長方形に見えます。この情報だけから判断するとこの立体は直方体ではないかと思えます。一方、別の人は同じ立体を真上から見ました。すると円形に見えます。この情報だけから判断するとこの立体は球ではないかと思えます。しかし、この立体をいろいろな方向から見た場合、直方体でもなく球でもなく円柱ということが分かります。

もう少し生活に当てはめて考えてみましょう。

きっと誰でも、友達のこと、勉強のこと、大人の人たちは、子どものこと、仕事のこと、ご家庭のこと、そのほかにもいろいろなことで悩むことがあると思えます。そのような時、どうやってその課題を解決していますか。なかには、悶々といつまでも一人で考えている人がいるかもしれません。そうすると、どうしても「どうせ自分なんて」とか「もう、どうでもいいや」という気持ちになり、どんどん落ち込んでいきます。

そんな時は、どうしますか。是非、どなたか信頼できる方に相談してみてください。友人でなくても、家族でも、学校の職員でも、カウンセラーの方でも、相談所の方でもよいのです。皆さんの周りには相談に乗ってくださる人がきっといるはずで。ちなみに、お子さんのことでお悩みの際は、本校にはスクールカウンセラーの鉢野先生が定期的にご来校されますのでご利用されるのも一つの方法ではないかと思えます。私も経験がありますが、一人でくよくよ悩んでいて頭の中に霧がかかったような状態だったのが、人に相談することで頭の中が一気にすっきりしたり、問題が解決したりしたことが何度かあります。

まさに、一人で悶々と考えているときは「木」しか見ていない状態です。ですが、いろいろな人に相談したり話したりすることで頭の中が整理されます。また、インターネットや書籍で調べたりすると視野を大きく持って考えたり対応したりできるようになります。このような状態は、まさに「森」を見ている状態と言えます。

是非、もしも何かに悩んだり心配事があったりしたときは、「木を見て森を見ず。」という諺を思い出してください。きっと、解決の糸口が見つかると思えます。



11月の学校行事から 音楽集会大成功

冒頭にも書きましたが、今年の音楽集会はとても盛り上がりました。それは、コロナ騒動が完全に収まっていない中でも保護者の皆様のご理解と地域の方のご協力の下で開催できからだと思います。そこで、なぜ、今年の音楽集会は盛り上がったのか、その主な理由を取り上げてみたいと思います。



① チェリーブLOSSAMさんから頂いた台を使いました。子どもたちの演奏する姿がよく見えるようになりました。それだけではなく子どもたちも壇上で演奏することで適度な緊張感もって演奏できたのではないかと思います。



② 児童数が減ったので低中高の括りで発表しました。プログラム数は半減しましたが、少し多めのまとまりで演奏ができ、子どもたちも楽しんで演奏できました。下位の学年の児童は上位の学年の存在で安心して演奏できたというメリットもありました。

③ 運動会でできなかった鼓隊演奏をしました。コロナ禍で延び延びになっていた鼓隊演奏をようやくご披露できました。来年こそは、運動会で披露したいですね。



④ 地域の方にご来校してもらい演奏していただきました。

特に、アルトサクソフーンやハーモニカの演奏、本格的なオペラの歌声を生で聴くことができました。普段、聞くことのできないジャンルの音楽が目の前に存在していることが驚きでした。

⑤ 職員も飛び入りで演奏しました。児童、保護者、地域、ゲスト、職員が一緒になって演奏できました。大勢で「いのちの歌」「ふるさと」を歌いました。

ほんとうに素敵な音楽集会になりました。ありがとうございました。

元気、元気の1年生を紹介します。

4月に入学して、8か月が過ぎてしまいました。今年の1年生は6名しかいないのでどうしても小さくまとまってしまうのかなと心配していましたが、そんなことはなくその昔40名を超える子どもたちでいっぱいだった大きな教室をのびのびと動き回っています。決してやんちゃ坊主ということではなく、本当にたくましさを感じます。その一端を紹介します。

町の図書館見学

11月19日（金） 九笹先生と6名の子どもたちを乗せ、町の図書館に行ってきました。

図書館にお勤めの方から町の図書館の使い方や傷んだ本を修繕するなど皆が気持ちよく読書ができるように裏でサポートして下さっている方々のことを知ることが出来ました。



また、いつも学校でお世話いただいている司書の方の読み聞かせがあり、1年生はとても楽しそうに聞いていました。



最後に、1人10冊まで借りることができるので、家から用意してきた大きなカバンの中につめ、重そうに持ち歩いていました。

チューリップの球根植え

とってもいいお天気だった11月29日（月）1年生は、チューリップの球根を植えました。来年の春、どんな色の花を咲かせてくれるんだろうかと想像と期待を込めてみんなで楽しく植えました。

